

NEWS

JAAF
HIROSHIMA

陸協ひろしまニュース
一般財団法人 広島陸上競技協会

第90号

H30.12.24発行



広島県リレーチーム

福井しあわせ元気国体で躍進

過去最高順位の2位!!

大躍進! 9年ぶりに決勝へ

第73回国民体育大会

男子共通4×100mR

40秒07

プロフィール

- 後藤達樹(ごとう・たつき) 所属:崇徳高校/2002年(平成14年)9月24日生まれ
国体B100m 6位 SB10秒81
- 井澤竜二(いざわ・りょうじ) 所属:広島皆実高校/2001年(平成13年)3月9日生まれ
全国高校総体100m出場 SB10秒56
- 松尾隆雅(まつお・りゅうが) 所属:東洋大/1998年(平成10年)8月6日生まれ
中国五県対抗100m 優勝 SB10秒43
- 山縣亮太(やまがた・りょうた) 所属:セイコー/1992年(平成4年)6月10日生まれ
ジャカルタ・アジア大会100m 3位 SB10秒00

*SB:シーズンベスト



ホームストレートを疾走する赤いユニホームに、観衆の視線はくぎ付けになっていた。福井国体最終日の10月9日、福井県営陸上競技場。陸上成年少年男子共通400mリレー決勝で、広島のアンカー山縣亮太(セイコー、修道高出)は次々と前の走者を抜き去り、同種目の広島県勢で最高となる2位でゴール。第1走者の後藤達樹(崇徳高)、2走の井澤竜二(皆実高)、3走の松尾隆雅(東洋大、神辺旭高出)の肩を抱き、準優勝の力走をたたえ合った。

「結果は気にしないでいい。自分の走りをしよう」。山縣は後輩たちの本来の走りを引き出すべく、こんな声を掛けていたという。16年リオデジャネイロ五輪で日本を銀メダル、今年のアジア大会では金メダルに導いたトップ選手の言葉に、チームの思いは一つになった。前半に高校生2人を置き、後半追い上げ型の布陣。日本代表では1走に定着している山縣は「新鮮な感じがある」と前向きにアンカーの大役を担った。

7日の予選を2着で滑り出すと、8日の準決勝は39秒80の好成績をマークして2

着通過。2009年新潟国体以来、9年ぶりに決勝へ進んだ時点で、躍進への予感漂っていた。

注目の決勝。後藤が「自分の走りに集中した」と好スタートを切り、井澤も着実にピッチを刻んでリレー。松尾も懸命の力走で5、6番手をキープし、山縣の「ごぼう抜き」を演出した。山縣自身が修道高1年時に国体に初出場し、2走を担った08年大分国体での3位を上回り、過去最高順位でゴール。それでも日本短距離界のエースは貪欲だった。「いい位置で回ってきたが、僕が少し出だしてミスってしまった。体が動いてくれなかった」。100分の7秒差で逃した優勝へのこだわりにもじませた。

とはいえ昨年まで8年間、決勝にすら進めなかった広島県チームに、大きな自信と財産がもたらされた。井澤は「これまで全国レベルの大会で表彰台に立つことがなかった。本当にうれしい」とにっこり。高校時代から5年連続のリレー出場となった松尾も「郷土の先輩、後輩と一緒に走れるのは国体だけ。ずっといい成績を残せていなかったのがうれしい」と喜びをかみしめた。そして、後藤を含めた3人は口々に言った。「やっぱり、後ろに山縣さんが控えていると心強い」



その山縣にとっても、福井国体は久しぶりに実力を全開する舞台となった。高校1年で初の全国タイトルを獲得して以来、「自分にとって特別な大会」と位置付ける大会だ。ここ3年間は故障で途中棄権や欠場が続いていたが、今回の成

年男子100mでは向かい風5・2mの強風にも負けず、10秒58で4年ぶりに制覇。桐生祥秀に続く同競技場での9秒台突入は果たせなかったものの、「多くの人に声援をもらった。風は強かったが、気持ち的には走りやすかった」と頬を緩めた。



山縣の「広島愛」にも注目が集まる国体だった。8月のアジア大会400mリレー優勝メンバーの桐生祥秀、ケンブリッジ飛鳥、多田修平が軒並み出場を見送る中、100mで3本、400mリレーで3本の計6レースで奮闘。「なぜ、広島から国体に出続けるのか」。報道陣の問いかけに、笑顔でこう答えた。

「僕が頑張ることによって地元の人たち、広島というくりでもそうですけど、(広島市西区の)鈴が峰町とか、もっと小さい地域の人たちが、すごく誇らしく思ってくれている。山縣選手って、この町の出なんだよと。元気になってくれるという言い方はちょっと違うかもしれないけど、たくさんの人にそう思ってもらえるのが僕の楽しみ。だからまた頑張りたいなと思える」。カーブ坊やの下着を着けて走ったことも明かした。



昨年まで大きな得点源だった女子100m障害やハンマー投げが実施種目から外れ、上位候補だった梶山林太郎(世羅高)と上田万葵(舟入高)もユース五輪と日程が重なって欠場する中で、競技得点はほぼ例年並みをキープした。そんなピンチを救った山縣、そして女子のリレーで奮闘した木村文子(エディオン)のオリンピック2人の背中を、故郷の後輩たちの心に大切な何かを伝えるに違いない。

text by K

1
日目
2018.OCT
10/5
FRI

インターハイのリベンジ

勢いをつけたい初日。近づいてくる台風の影響はまだ感じられないままのコンディションの中、少年男子A走幅跳 藤原陸登(福山工高3)が1回目の試技で先制パンチの大ジャンプ。インターハイ入賞を逃した悔しさを晴らし、見事5位に入賞した。また、入賞できなかったものの少年男子A400mHで荒谷修平(神田旭高3)、少年男子B砲丸投で迫田力哉(西条農高1)、少年女子共通400mHで藤原めい(西条農高3)がそれぞれ自己ベストを出す健闘を見せ、2日目以降につながる滑り出しとなった。



藤原陸登選手

2
日目
2018.OCT
10/6
SAT

よりによって台風...

台風の接近による影響で強風が吹き荒れる中、まずは成年女子走高跳において神田菜摘(福岡大2)が8位に入賞。跳躍種目は2日連続入賞となった。そして、100m9秒台を目指す山縣亮太(セイコー)が登場。この日一番の強い向かい風というあいにくのコンディションの中、他を寄せ付けない圧倒的な強さを見せ優勝。さらに、その勢いを受けて少年男子B100mでも後藤達樹(崇徳高1)が予選、準決勝とブラスで残って何と6位入賞と大健闘。男子スプリント2種別での入賞で、翌日から始まるリレーに期待が膨らんだ。

神田菜摘選手



後藤達樹選手

山縣亮太選手

第3回ユースオリンピック競技大会
2018/ブエノスアイレス

●開催地:アルゼンチン/ブエノスアイレス ●期間:2018年10月6日~18日(13日間)

今回、タイで行われたアジア予選を無事通過し、本選に出場することができました。開催地が時差12時間のアルゼンチンということもあり、出発前は不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、現地に到着してから日本選手団のみならず、各国の様々な競技の選手達と交流イベント等を通してコミュニケーションを図ることもできとてもいい経験になり、いい意味で不安も取り除くことができました。出発前1、2週間は膝の違和感があり、十分に練習が積めていませんでしたが、現地の素晴らしい雰囲気もあり、いい状態で調整練習をすることが出来ました。レースでは各国のトップアスリート達のしっかりとした体格や堂々とした姿勢に圧倒されながらも、出せる力を十分に発揮できたと思います。しかし、外国人選手と言えども自分と同年代と考えたら、まだまだ私が世界を舞台に戦うには補わなければならない要素が沢山あることに気付かされました。今回のユースオリンピックでの素晴らしい経験を活かし、ジュニア・シニア世代になっても、最終目標であるオリンピックでのメダルを目指して、日本代表として先陣を切るよう努力していこうと思います。最終目標であるオリンピックでのメダルを目指して、日本代表として先陣を切るよう努力していこうと思います。最終目標であるオリンピックでのメダルを目指して、日本代表として先陣を切るよう努力していこうと思います。



舟入高校 上田 万葉

日本のレースではない揺さぶりや上げ下げの中で5着はまずまずといった感じでした。何よりすごく楽しく走れました。クロスカントリーの4000mの順位と3000mの順位を足して総合順位が決まるので、クロスカントリーでメダルまで持っているように頑張りました。その結果、クロカン全体で19番でした。その中に2000SC、1500mの人もあり、結果的にクロスカントリーは3000mの人の中で8位。そして最終結果は6位でした。応援ありがとうございました。世羅高校 梶山 林太郎

力を出し切ったぞ!

「頑張れチーム広島」福井国体にて



福井しあわせ元気国体

第73回国民体育大会 平成30年10月5日(金)~10月9日(火)

9年ぶりの決勝進出! 織りなそう 力と技と美しさ



福井しあわせ元気大会

第18回全国障害者スポーツ大会 平成30年10月13日(土)~10月15日(月)

応援ありがとうございました! 総合成績 天皇杯(男女):46.25点[14位] 皇后杯(女):6.25点[38位]

3
日目
2018.OCT
10/7
SUN

バーを跳び越え入賞連発

台風一過、風は収まったものの蒸し暑い一日となった。その不快感を吹き飛ばしたのは少年女子B100mHに出場した浅木都紀葉(口田中3)。高校生相手に健闘し、予選・決勝の2レースをともに中国中学校新記録・中学校日本歴代2位の好記録で駆け抜け見事に3位入賞。中学生には負けられないと、少年男子共通110mHでは福本廉(広島皆実高3)が昨年に続き5位入賞。これで跳躍・短距離に続きハードル種目でも入賞者が出た。さらに、成年男子走高跳で真野友博(福岡大4)が2年連続の3位入賞。跳躍種目の連続入賞が3日に伸びた。

浅木都紀葉選手

暑さになんか負けない!



福本廉選手

4
日目
2018.OCT
10/8
MON

リレー過去最高順位!!

前日に続き暑さはあるものの、好コンディションの1日。少年男子共通走高跳で桐木紳吾(広島工高3)が、インターハイでは決勝に残りながらも入賞に届かなかったリベンジを果たし、7位に入賞。5日目は跳躍種目が行われないため、今回跳躍種目はすべての競技実施日で入賞者を出すという快挙。また、成年男子やり投で道上雅晃(GOLD'S GYM)が3投目に快心の投てきを見せ6位入賞。投てき種目初入賞となった。そして、この日の最終種目成年少年男子共通4x100m準決勝において、後藤・井澤竜二(広島皆実高3)・松尾隆雅(東洋大2)・山縣のオーダーで出場した広島県チームが39秒80の好成績をマーク。見事に決勝へ進出した。

道上雅晃選手



真野友博選手



桐木紳吾選手



吉本真啓選手

5
日目
2018.OCT
10/9
TUE

全ブロック入賞完了!

最終日も穏やかな天候。まず、少年男子B3000mで吉本真啓(世羅高1)がベースの上げ下げが激しい展開の中で冷静にレースを進め、自己新記録を大きく更新し6位に入賞。長距離種目で入賞したことで、短距離・長距離・ハードル・跳躍・投てきの全ブロックでの入賞となった。そして大会最終種目、成年少年男子共通4x100m決勝。1、2走の高校生が他県の成年選手相手に粘りの走りをつなぎ、3走の松尾から追い上げ開始。6番手でアンカーの山縣へバトンが渡ってから猛烈な追い込みで他県をこぼす抜き。初優勝は逃したが、広島県過去最高の2位でゴール。有終の美を飾った。



いきいき茨城ゆめ国体へGO!

年代別レポート

小体連

私たち東広島TFCは、9月23日に道後山クロカンパークで行われた、全国小学生陸上クロスカントリーリレー研修大会広島県予選会で優勝し、3年連続3回目の全国へのキップを手にした。昨年も走ったメンバーが半数残っており、今年は8位入賞を目標に向けて健脚を磨いた。11月の広島県小学生総合体育大会陸上競技の部でも、昨年に続いて男女同時優勝。各学年、各種目に入賞者があり、チーム力の底上げが出来た。廿日市市小学生駅伝、三原駅伝、S&Bちびっ子マラソンと多くの大会に参加し、経験を積んだ。

いよいよ12月9日。大阪万博公園特設コースで第21回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会。一昨年、昨年と果たせなかった目標に向かって大会に挑んだ。女子友好トライアルの部で堀菜々美(6年)が2位、男子友好トライアルの部で末田唯久海(5年)が9位と好スタート。熱い走りにチームに勢いを付けてくれた。そしてチーム対抗クロスカントリーリレーの部では、1区清水彩加(6年)が最後尾からのスタートにもかかわらず14位と好スタートを決め、2区三宅悠斗(6年)がエースの力走で8人抜き6位まで上昇。3区本田海央(6年)、4区新木大翔(6年)、5区高取亜也子(6年)、6区新木悠雅(6年)が粘りの走りで見事入賞圏内を守り切り、7位でフィニッシュ。チーム目標の8位入賞を決めた。目標を掲げ、それに向かって頑張る大切さ、プロセス、達成感を改めて感じたレースだった。

最後になりましたが、日頃から支えて頂いている広島陸協・東広島陸協・地域の小学校関係者・地域の皆様・チーム関係者・保護者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

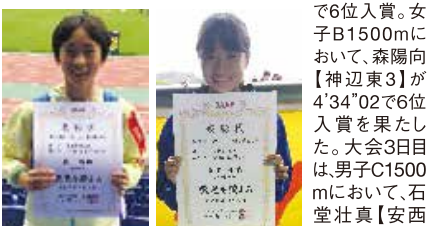
東広島TFC
コーチ 矢野 晃



中体連

今年度の下半期のトラック&フィールドを神奈川県横浜市の日産スタジアムで行われた第49回ジュニアオリンピック陸上競技大会を中心に振り返りたいと思う。

今回の大会は、新しい年齢区分により高校生の参加もあった。その中でも、広島県選手団の活躍があった。大会1日目は、女子A100mYHにおいて、浅木都紀葉【口田3】が14.04/-0.6で優勝を果たした。大会2日目は、女子A100mにおいて、山本千葉【府中緑ヶ丘3】が12.39/+0.7



で6位入賞。女子B1500mにおいて、森陽向【神辺東3】が4'34"02で6位入賞を果たした。大会3日目は、男子C1500mにおいて、石堂壮真【安西

2】が4'12"18で7位入賞。男子A砲丸投において、中村一達【安佐3】が14m45で7位入賞を果たした。そして、女子C800mにおいて、山本悠理【大和2】が2'13"92で優勝を果たした。また、高校生においては、A3000mにおいて、新谷紘ノ介【世羅高1】が8'38"99で8位入賞を果たした。男子リレーチームは予選敗退。女子リレーチームは、県新記録(48'40)を出したが準決勝で惜敗した。

昨年度の入賞者を上回り、中学生6名、高校生1名、合計7名の入賞者を出す大会となった。シーズンを通しての酷暑や豪雨災害の中、懸命に頑張ってきた選手たちの成果である。

広島陸上競技協会 強化委員会
ジュニア強化部長 渡邊 悦久



高体連

シーズンの後半、インターハイ後の主な競技大会について振り返ってみる。

大阪府のヤンマーフィールド長居で行われた第6回全国高等学校陸上競技選抜大会(8/25-26)は、普段行われない種目を行ういわゆるトランスファーの大会である。男子3000mで伊豫田運弥(舟入3)が3位、女子2000mで榎原沙紀(呉三津田2)が6位、同2000mSCで谷本七星(舟入1)、同四種競技で藤原めい(西条農3)が5位と、4名が入賞。

今年から年齢区分が変わったことで高校1年生の早生まれの選手が参加可能となった。第49回ジュニアオリンピック陸上競技大会(10/12-14)では、A男子3000mで新谷紘ノ介(世羅1)が8位に入賞した。

トラックシーズンを締めくくると第34回U20-U18日本陸上競技選手権大会(10/19-21)でも広島県選手が活躍。U20男子では福井国体でも入賞した福本廉(広島皆実3)が110mHで大学生に交じって6位。同様に走高跳で桐木紳吾(広島工3)が4位、走幅跳で藤原陸登(福山工3)が5位。U20の女子ではハンマー投でインターハイ2位の中新美月(西条農3)が5位と、全国大会入賞経験者がその実力を発揮した。U18では男子4×100mRで広島皆実(八木優気・妻沢篤志・山中太智・村上登真)が8位、同走幅跳で乃美裕介(尾道北2)が2位、同やり投で松重安真(市立広島1)が2位と、来シーズンのインターハイに向けて明るい展望が持てる結果となった。

今年の全国大会は、高体連としては全国高校駅伝を残すのみとなった。トラック&フィールドとしては、これから厳しい冬練習に向けて、来シーズンに向けてしっかりと根を張って、大輪の花を咲かせるべくそれぞれが努力を重ねることを期待したい。

広島県高体連陸上競技部 事務局長
五日市高校 野崎 秀和

学生連盟

広島県学連のシーズン下半期に開催された大きな大会を振り返ってみた。

まず、9月6日~9日に等々力陸上競技場にて開催された第87回日本学生陸上競技対抗選手権に広島大学と広島経済大学の2校から計12人の選手が出場。特に男子1500mの大竹康平(広経大)や男子400mHの尾崎雄祐(広大)、女子七種競技に安田夏生(広大)が予選を通過し決勝へと駒を進めた。

続いては、9月23日に庄原市道後山クロカンパークにて開催された、第50回全日本大学駅伝対校選手権記念大会中国四国地区選考会。この大会で1位を決めた大学は11月に行われる全日本大学駅伝本戦への出場権が得られる。当日は晴天に恵まれ、13大学で争われた結果、1位が広島経済大学、2位に広島大学と県学連加盟校がワンツーに食い込んだ。更に両者の差はわずか17秒。近年稀にみる接戦であった。また、この予選会にて全体のトップでフィニッシュをした広島大

学の河北竜治選手は、日本学連選抜チームの候補選手に選出された。

駅伝や長距離種目になると、箱根駅伝等で活躍する関東勢の壁が地方大学の前に大きく立ちはだかる。簡単に超えられる壁ではないが、地区大会を勝ち上がり「全国の舞台を走りきる」という経験がこれからのチームの大きな財産になる。

最後に、10月26日~28日の3日間にかけてココ・コーラポトラーズジャパン広島総合グラウンドで開催された、第41回中国四国学生陸上競技選手権大会、通称「中四個人」と呼ばれるこの大会は2年ぶりの広島開催であった。会場設営や運営を県学連加盟校と中四国学連で行った。競技面でも大会運営面でも多くの学生たちの活躍や協力が見られ、県学連加盟校の選手の多くが優勝や入賞を果たした。

最後となりましたが、この第41回中国四国学生陸上競技選手権大会においてご協力を頂きました広島陸上競技協会を始めとする皆様にも厚く御礼申し上げます。

中国四国学生陸上競技連盟広島県支部 幹事長
広島修道大学陸上競技部 吉見 健太

実業団連盟

6月に山口県で開催された第102回日本陸上競技選手権大会において、女子3000mSCで石澤ゆかり選手、女子800mで北村夢選手のエディオン勢2選手が見事優勝した。女子100mHにおいても木村文子選手(エディオン)が3位入賞を果たす活躍をみせた。

また、8月に開催された第18回アジア競技大会(インドネシア・ジャカルタ)に、日本代表として石澤ゆかり選手(エディオン)が女子3000mSC、北村夢選手(エディオン)が女子800m・女子4×400mRに出場し、それぞれの種目で入賞するなど、エディオン所属選手の健闘が光った。

ロードレースでは、8月26日に開催された北海道マラソン2018に、岡本直己選手(中国電力)が出場し、最後までもつれた優勝争いを制し初優勝のゴールテープを切った。この結果により2019年9月開催予定のMGC(東京オリンピック・マラソン日本代表選考会)への出場権を獲得した。

これから駅伝・マラソンシーズンに突入するので実業団選手の更なる活躍を期待したい。

広島県実業団陸上競技連盟 事務局
中電工 栗原 圭太



↑石澤ゆかり選手(エディオン) ↑北村夢選手(エディオン)

マスターズ連盟

2018年マスターズ陸上選手権大会

9月22日から第39回全日本マスターズ陸上選手権大会が鳥取市布佐運動公園で開催された。5歳ごとのクラスに分かれて記録を競う「マスターズ陸上」である。

第103回日本陸上競技選手権福岡大会2019年6月28日開催でマスターズ種目の導入が決定され、選手皆さんの出場資格をかけて、若返った動きで活躍され、広島県からも多くの選手が参加資格を獲得した。広島県から29歳以上の103名が参加し、全国の憧れの選手101歳の富久正二さん(三次市)も元気に走り抜けた。優勝者18名、2位29名、3位15名、4×100mRではM65は大会新で優勝、M35は2位、女子はW45で優勝、会場の電光掲示板に次々と県選手の名前が表示され、陸上王国広島を皆さんの活躍で大いに存在感を表した。

仲間や友達と楽しみや喜びを感じ生涯スポーツとして、マスターズ陸上競技で益々元気にチャレンジを!

県大会開催にあたっては多くの会員、審判員そして学生補助員の皆さんにご尽力いただき感謝申し上げます。来年度も広島マスターズ陸上を宜しくお願いします。

●大会結果は広島マスターズ陸上HPをご覧ください
ホームページアドレス <http://www.34hmr.com/>

広島マスターズ陸上 広報
磯村 公三

叙勲褒章

- 旭日重光章 山本 治朗
公益財団法人 日本陸上競技連盟栄章
高校優秀指導者章 原野 みどり
中学優秀指導者章 鈴木 晶雄
高校優秀選手章 菅 颯一郎
中学優秀選手章 北野 裕太
安藤百福記念章 鱈川 裕司

公益財団法人 広島県体育協会 体育賞

- 日浦 宏 (広島陸協・広島市)
津丸俊二 (広島市スポーツ協会)
加藤 敦 (広島県高体連)

一般財団法人 広島陸上競技協会 功労章

- 太田一雄 (広島市)
菅尾正一 (安芸郡)
井川公雄 (尾道市)
仁井谷俊憲 (広島市)
中元眞理江 (江田島市)
池田 光明 (福山市)

一般財団法人 広島陸上競技協会 優秀選手賞

- 国際大会の部
山縣亮太 (セイコー)
藤井菜々子 (エディオン)
梶山林太郎 (世羅高校)
上田 万葵 (舟入高校)
国内大会の部
チャールズ・ディランゴ (JFEスチール)
藤井菜々子 (エディオン)
湯淺佳那子 (日本体育大学)

- 2018日本学生陸上競技個人選手権大会
石澤ゆかり (エディオン)
北村 夢 (エディオン)
岡本 直己 (中国電力)
浅木都紀葉 (口田中学校)
山本 悠理 (大和中学校)
第73回国民体育大会優勝および入賞の部

- [1位] 山縣 亮太 (セイコー)
[2位] 後藤 達樹 (崇徳高校)
井澤 竜二 (広島皆実高校)
松尾 隆雅 (東洋大)
山縣 亮太 (セイコー)
[3位] 真野 友博 (福岡大学)
浅木都紀葉 (口田中学校)
藤原 陸登 (福山工業高校)
福本 廉 (広島皆実高校)
[6位] 道上 雅晃 (GOLD'S GYM)
後藤 達樹 (崇徳高校)
吉本 真啓 (世羅高校)
桐木 紳吾 (広島工業高校)
[8位] 神田 菜摘 (福岡大学)

- [新記録賞]
広島県記録
安田 夏生 (広島大学)
湯淺佳那子 (日本体育大学)
北村 夢 (エディオン)

- 石澤ゆかり (エディオン)
真野 友博 (福岡大学)
藤井菜々子 (エディオン)
県高校記録
藤原 陸登 (福山工業高校)
平岡 美帆 (舟入高校)
荒谷 弥希 (神辺旭高校)
中新 美月 (西条農業高校)
村上 愛結 (安芸高校)
県中学生記録
脇坂 里桜 (府中緑ヶ丘中学校)
浅木都紀葉 (口田中学校)
三永珠綺・山本千菜・荒木那菜・脇坂里桜 (府中緑ヶ丘中学校)
県小学生記録
檜高 陽斗 (布野小学校)
岡藤 美音 (石内南SKRC)
春日 楓花 (リトルランナーズ広島)
藤原 愛心 (東広島TFC)

第38回ひろしま国際平和マラソン

2018.11.3(日・祝) 広島

審判員の高い意識に感謝!!

私は時間の都合が許す範囲内で、長年各種陸上競技会の審判員として参加し、選手第一で公正、公平な運営に努めています。平和マラソンは体力やトレーニングの度合いに応じてそれぞれの種目に参加できることから、競技ランナー、職場のランニング愛好家、ファミリーをはじめ学校の卒業記念といった多種多様な参加目的で老若男女問わず幅広く参加しています。こうしたことから参加者はトレーニングの差はあるものの、タイムを競ったり完走を目指します。しかしながら大会当日に体調不良や天候状況により急変があるにも関わらず無理して完走を目指すものです。大会成功の鍵は「全参加者が安全に競技を終え、無事に家路につけること」です。こうしたことを思いながら審判員としてコースについています。競技中はランナーの顔色、発汗状況や足取りに気を配りいち早く以上を感じ取れるよう注意深く観察をしています。過去には大きな事故も発生しているようですが、常にランナー一人一人が安全にゴールできるように心配りをして努めました。



↑山本和正(左) 野間光明(右)

アスレチック倶楽部 山本 和正

天皇盃 第24回 全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

広島県代表選手団 [2019/1/20 広島]

Table with columns: 種目, 名前, 所属. Lists male relay team members including 藤川 拓也, 吉田 圭太, 北 魁彦, etc.

皇后盃 第37回 全国都道府県対抗女子駅伝競走大会

広島県代表選手団 [2019/1/13 京都]

Table with columns: 種目, 名前, 所属. Lists female relay team members including 石澤ゆかり, 西田 美咲, 石尾木乃美, etc.

青少年の夢を応援します!

(順不同)

青少年健全育成協力企業

- 株式会社ツルハグループ
ドラッグ&ファーマシー西日本
株式会社サタケ
朝日医療専門学校広島校

- 広島駅弁当株式会社
中国電力株式会社
有限会社道後山高原サービス
株式会社中電工
広島ガス株式会社
広島電鉄株式会社

- 広島総合警備保障株式会社
株式会社広島銀行
株式会社もみじ銀行
大塚製薬株式会社広島支店
アシックスジャパン株式会社
株式会社 BTM

- 学校法人石田学園
株式会社合人社グループ
株式会社体育社
株式会社ニシヒロ
COCOKALA GROUP
T&T WAM サポート株式会社

- T&T タウンファーマ株式会社
T&T ネットワーク株式会社

特別協力企業

- ミズノ株式会社
株式会社キリンビバックス